

NGOパルシック主催

石巻北上町訪問ツアーに参加しました!

川口 幸男

パルシック (PARCIC) は、地球の各地で暮らす人と人が、国家の壁を越えて助けあい、支えあい、人間的で対等な関係を築くことを目指して活動する NGO です。国際協力とフェアトレードを主な活動内容としています。ただし、国と国の協力である国際協力ではなく、市民と市民との協力という意味で『民際協力』と呼んでいます。とくに外国の占領や侵略あるいは紛争の下で、近年増えている自然災害によって、自立的な発展を阻まれた人びとが暮らしを取り戻すことに協力する活動を重視します。

パルシックは東日本大震災の直後から石巻市を中心に緊急支援を行い、2011 年秋からは北上町十三浜の漁村で復興支援を行って来ました。

今年 11 月 3 日～5 日 (2 泊 3 日) パルシック主催で、石巻北上町訪問ツアーが開催され、私も参加して来ました。参加者は 8 名。

石巻北上町ツアーの主な目的

十三浜の漁師さん達のワカメの種付け作業・加工を手伝う中で、地元の方と交流し、地域の人々の生活や文化を学ぶ。



石巻市北上町十三浜は、わかめ養殖を主とする漁村です。

南部神楽や集落ごとの祭りが徐々に復活し、仮設住宅で暮らす人びとが、集落の絆を取り戻すきっかけともなりました。

第一日目

石巻市内にある大川小学校を訪問し、北上町情報交流館で震災の話を聞いた後、高台に移動して被災者の方々と交流し、追分温泉に宿泊しました。

日や山頂上から、湾の護岸工事・高台工事の状況を一望することができました。

大川小学校 (児童 107 人の内、74 人と職員 10 人が津波で亡くなりました。) は、時間が止まったかの如くの状況で、自然の破壊力のすさまじさを改めて実感させられました。

被災者のタテヤマさん (漢字不明) から、震災後の状況や高台移転後の暮らしぶりをうかがいましたが、タテヤマさんの声にはハリがあり、地域の方々と助け合い・協力し合っているのがとても印象的でした。

第二日目



十三浜大指港（鵜の助）で、わかめの種付けのボランティア作業をして、民宿「小滝荘」に宿泊しました。

「鵜の助」は3家族でワカメ・昆布・ホタテ等を養殖しています。「鵜の助」の由来は、鵜が獲ったばかりの魚の新鮮さをイメージして名をつけたとのことでした。

午前中は、ワカメの種付け作業を体験し、その後、種付けしたロープを養殖場へ投下する船に同乗しました。

- ・ 130mぐらいのロープに二人一組になって、一人はねじれたロープを両手で押して隙間を作り、もう一人が種用のワカメをスキ間に差し込んでいきます。種付けワカメは5センチ間隔ぐらいです。
- ・ 湾から外洋に出ると、養殖場にはロープに括られたブイが何十と浮いています。沈めてあるロープがからまないように、積んできた種付きロープを1本ずつ養殖場へ下していきます。積んできた4本のロープを沈めるのは約1時間ぐらいの作業量で、漁師の仕事は大変な重労働だと実感させられました。
午後は、冷蔵庫で保管されていたワカメの加工作業をお手伝いしました。
- ・ ワカメの元7~8センチぐらいと先の30センチぐらいは、商品価値が変わるので切り落とす作業を協力しました。

- ・ 地元の方々は、元と先を落としたワカメの茎を芸術的に分ける作業を行って製品が出来上がります。
製品化されるまでには、随分と手間がかかるものです。

十三浜のわかめの特徴は、外洋に面した荒波と北上川から栄養豊富なミネラルが流れる十三浜は、ワカメ・昆布の養殖に最適で、ワカメは肉厚でシャキシャキした食感でした。

加工場で一緒に作業した奥さん方は皆さん元気で快活な方ばかりでした。

第三日目

新古里農園で葦で紙づくり体験と加工品の紹介があり、その後情報交流館で被災者と交流しました。



ボランティアの協力を得て建てられた農園ハウスはなかなか感じが良かったです。

農園ハウスで取り扱う商品は、それぞれの専門家とタイアップして可能になったとのことで、ケーキ、チーズパン、シフォンケーキ、タルト、ジャム、玄米コーヒー、藍染、ドライフラワー等、人と人との繋がりが大きな力になっていました。

被災者の佐藤ナオミさんは、震災前に北上町に嫁ぎましたが、震災直後、地域の食品を確保するためにマーケットを立ち上げ、弁当の注文販売も

手掛けてきました。マーケットは来年3月までを予定しているそうです。その後は住民自治づくり、高齢者支援、地域の活力づくりが課題とのことです。

コミュニティーナース、コミュニティー栄養士を募集し、前者は市の補助が得られたそうですが、後者は、自立事業として営むそうです。

今回のツアーに参加して感じたこと

1. 今回の石巻北上町訪問では、地域の暮らしぶりや地域を支えている方々の思いの一端を知ることができました。いろんな方々からの物理的な復興支援が地元の人たちには大きな力になっていることを強く感じました。私も東北地方には、継続して出向くようにしたいと思います。
2. パルシックは復興支援事業を受託して取り組んでいるとのことですが、パルシックの活動についてもう少し詳しく調べてみたいと思いました。又、今回参加されたメンバー一人一人が多様な活動をされており、何らかの形で今後交流が出来ると思いしました。
3. 北上町十三浜のワカメ種付け体験を通して、漁業の厳しさとそこで働いている人達のやさしさみたいなものがよく伝わってきました。
体験企画にもっと多くの参加者が集まる工夫ができませんでしょうか。例えば、中・高生に呼びかけができませんでしょうか。
4. ワカメを、切り落としている元と先の部分を含めて丸ごと使う工夫をすれば、商品価値ももっと上がるのではないかという気がしました。
5. 北上町の地域の活動を通して、自分は我が地域とどう関わっていくのか問われていると感じました。
現在、私は地域で子供達も参加できる料理教室や、健康体操グループを立ち上げ、仲間と一緒にいたりしているのですが、今後、高齢化、一人暮らしが増える中で、地域の繋がりや協力・共同の関係を更に深めていくために、実践しながら更に追求していきたいと考えました。